

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 つながりをせつめいしよう 『すみれとあり』
～「ひみつフラッグ」を作ろう～

2 単元の目標

- 「ひみつフラッグ」を作るために進んで読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- すみれの種が時間の経過とともに変化していく様子や、ありとの関わりに気を付けて、すみれが仲間を増やしていく仕組みを読むことができる。 (読むこと)
- 主語と述語の関係に注意して読み、ありの行動やすみれの種の変化を読み取ることができる。 (読むこと)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・「すみれとあり」を進んで読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象と問題を受けて、すみれの種が時間の経過とともに変化していく様子、ありとのかかわりに気を付けながら、すみれが仲間を増やしていく仕組みを読んでいる。(ア) ・すみれとありの関係に気を付けて、文章中の大事な言葉や文を書き抜いている。(ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に注意しながら、文章を読んだり書いたりしている。(1)(ア)

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、小学校指導要領・国語「第1学年並び2学年」「C読むこと」の言語活動例「ア説明的な文章を読む活動」を踏まえ、時間的な順序や事柄の順序に沿って内容を理解することをめざし「ひみつフラッグ」を使って1年生に説明する、という言語活動を位置付けた。時間や事柄の順序に気を付けながら、すみれとありの関わりや、すみれが仲間を増やす仕組みについて読み解いていくことで、生き物の不思議を発見し、「1年生に伝えたい。」というゴールへの意欲を引き出していきたい。

「すみれとあり」は、すみれの花が意外な場所にも咲いていることを取り上げ、すみれが種を飛ばし、仲間を増やしていく仕組みをわかりやすく説明した説明文である。子どもたちは、この説明文の問いである「どうして、こんなばしょに、さいているのでしょうか。」(3段落)の答えを読み解くために、すみれが種を飛ばす様子と、ありが種を運んでいく様子に着目して読み進めていく。子どもたちは、その二つが結び付くことで、問いに対する答えを発見することができるだろう。問いを解明していく過程では、「すみれが種を飛ばす様子」「ありが種を運ぶ様子」について、時間的な順序、事柄の順序を考えながら丁寧に読み取らせていきたい。そのためには、「なにが～どうする」の主語と述語の関係を捉えさせ、文章を順序によって整理したり、写真と対応させたりしながら読ませていきたい。

そこで、子どもたちが、時間や事柄の順序を正しく捉えるツールとして、「ひみつフラッグ」を使用する。「ひみつフラッグ」とは、旗の表側にはすみれやありがたねを運ぶ様子の絵を描き、裏側には、その説明を1文で書いた旗である。旗は、10 cm程度の画用紙と割り箸を使い作成する。「ひみつフラッグ」は、旗の表の絵と文を対応させなくてはいけないだけでなく、「なにが～どうした」を1文で簡潔に表現していかなく

てはならない。また、フラッグの裏面には、時間や順序を明確にとらえるために、「まず」「次に」など、時間を表す言葉を補い、説明の文を書かせるようにする。さらに、すみれやありの位置関係や時間の経過、ありの動きを具体的にとらえるために、フラッグボードを利用する。「ひみつフラッグ」を、順序に沿って説明しながら、位置関係も意識し、1本ずつボードの上に置いていく。フラッグをボードに置く活動を行うことで、子どもたちは、問いの答えである「すみれの花が意外な場所に咲いているわけ」や「ありとすみれのつながり」に気付かせたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領「C読むこと」における指導事項(ア)「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」と指導事項(ウ)「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定している。そこで、本単元では問いと問いを解明する過程の時間的順序や問いの答えを考えながら、説明の大体を読み、大事な言葉や文を書き抜く力を育てる。また、語と語や文のつながりに気を付けて文章を書く力を育てる。

「すみれとあり」の学習では、「なぜだろう?」と思ったことの答えが解明される過程を、筋道を追って読むとともに、そうした体験を導いた表現の仕方を学んでいく。すみれが種を飛ばす順序やありがその種を運ぶ順序に気を付けて、すみれとありのつながりを説明するために「ひみつフラッグ」を取り入れる。言葉だけの表現だけでなく、絵を描かせることで、説明する内容をイメージさせていきたい。「ひみつフラッグ」にまとめていく中で、文章を簡潔に書き抜く力を付けさせたいと考える。また、フラッグボードを利用し、ボードに立てながら説明することで、時間や事柄の順序、位置関係についてより深く理解させていきたい。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

①読書活動

本学級の読書傾向をみると、自ら親しみ、生きもの本を楽しんでいる児童は少ない。そこで、図書館指導員と連携し、生きものが出てくる本、ありの様子が書かれてある本を用意することとした。単元に入る前には、朝の読書タイムや図書の読み聞かせなどを使い、「すみれとあり」の絵本や植物の絵本の読み聞かせを行う。植物の絵本などを読み聞かせ、すみれやありについて関心を高めたいと考える。

②音読

本学級では、音読の宿題を毎日行うようにしている。教材文を何度も音読することで、時間的順序の言葉を自然と覚え、説明する文章の表現に興味を持つことにつながるだろうと考える。そのことは、「すみれとあり」の「ひみつフラッグ」を書く活動にも自然とつながっていくだろうと考える。

③作文帳を使った「1週間のできごとを振り返ろう」

作文帳を使って1週間のできごとを振り返る活動を行う。この活動は、1週間の生活の中で感じたことを短い言葉で説明する力を付けることを目的とした活動である。1週間の生活の中で心に残ったことを振り返ることで、本単元の学習で簡潔に説明文を書く際に、抵抗なく取り組むことができると考える。書きたいことをずらずらと表現するのではなく、順番を表す言葉などを教師が示し、児童を飽きさせないよう工夫して活動に取り組ませていく。

5 児童の実態

(省略)

6 指導計画 (全10時間)

次	時	学習活動	指導や支援の手立て◇評価 (評価方法)
1	1	○1年生に「すみれとあり」のひみつについて説明しようという意欲を持つ。 ○教科書を使い、学習の見通しを持つ。	・教師がフラッグのモデルを提示し、「すみれとあり」のひみつフラッグを作り、説明するという意欲を高める。
2	2	○P30を読んで、この文章の筆者が投げかけている問題について考え、話し合う。 ○第(二)段落を読み、写真と対応して順序に気をつけて読み取る。	・すみれの咲く季節、場所などを確認し、すみれに興味を持つ。 ・問いかけの文「どうして、こんな場所に、さいているのでしょうか。」を見つける。 ・P31の4枚の写真を拡大して用意しておく。 ・写真と対応させて順序に気を付けてすみれの変化を読み取る。
	3	○第(二)段落で学習したことを、ひみつフラッグにまとめる。	・ひみつフラッグの作り方を確認する。 ・前時の学習を振り返り、読み取ったことをひみつフラッグにまとめられるよう、画用紙を配る。 ・「まず」「つぎに」「そのあと」などの言葉を補わせて、文をつないでいく。 ◇すみれの種が運ばれる様子を、順序をおさえて読み取っている。(ひみつフラッグ)
	4	○第(三)段落P32L2～P33L4を読み、ありが種を運ぶ様子を順序に気をつけて読み取る。	・順序を表す表現をおさえて読み取る。ありになって動作化をする。 種を見つけた→すの中へはこんでいく→すの外へすてている。
	5	○第(三)段落で学習したことをひみつフラッグにまとめる。 ○主語の「あり」に着目させ、「述語」に迫ってひみつフラッグに種を運ぶ様子をまとめる。 ○「なにが～どうする」を参考にして、ひみつフラッグに書く。	・拡大本文の掲示を作成し、第(三)段落の「なにが～どうする」のところに線を引き、ありの行動について確認する。このとき、主語や述語に着目させる。
	6 (本時)	○ありがたねを運ぶ様子を順序よく説明する。 ○第(二)段落と第(三)段落でまとめたフラッグを使い、フラッグボードの上で操作しながら、ありの行動についてフラッグを操作する。 ○種だけがありがの巣の近くの地面に取り残されていることをおさえて、すみれとありのひみつにせまる。	・拡大本文の掲示で本文に返り、前時までの学習を想起させ、順序をおさえる。 ・児童がフラッグボードの上で操作をした際に、「白いかたまりだけがなくなっている」ことについて考えさせ、ありの行動やすみれの種の様子に気付かせる。 ◇ありが種を運ぶ様子を事柄の順序に気を付けて読むことができる。(フラッグボード)

7	<p>○第（四）場面P 3 3 L 6～終わりまでを読み、すみれとありの関係を読み取る。</p> <p>○P 3 3 L 6～終わりまでを音読する。</p>	<p>・問かけ文を思い出させるよう、拡大本文を示し、その答えについて考えられるようにする。</p> <p>・「～のです」の使い方に着目させる。</p> <p>・拡大本文の掲示ですみれのなかまの増やし方について迫り、ありとの関係に触れる。</p> <p>◇すみれとありの共存関係について知ったことを、振り返っているか。（ノート）</p>
8	<p>○前時までの読みを振り返り、問かけ文「どうして、こんな場所に、さいているのでしょう」に対する解答文のひみつフラッグを作る。</p> <p>○ひみつフラッグを使って時系列で整理をする。</p> <p>○すみれがどのようにして、いろいろな場所に花を咲かせているか、そのわけを絵や文で表し、「ひみつフラッグ」に書く。</p>	<p>・解答文のフラッグが完成した子には、すべてのフラッグを使って説明するよう促す。</p> <p>◇すみれがどのようにして、いろいろな場所に花を咲かせているか、そのわけをひみつフラッグに説明の文を書いている。（ひみつフラッグ）</p>
9	<p>○すみれがどのようにして、いろいろな場所に咲かせているのかを、「ひみつフラッグ」を使って説明する練習をする。</p> <p>○1年生に向けて、「すみれとあり」について説明する練習をする。</p>	<p>◇「ひみつフラッグ」を使って、すみれとありの関係について説明している。</p>
10	<p>○1年生に「すみれとあり」のひみつについて「ひみつフラッグ」を使って説明する。</p> <p>○1年生に「ひみつフラッグ」を使って、「すみれとあり」のひみつを紹介する。</p>	<p>○順序に気をつけて、説明するよう促す。</p>

7 本時の目標と展開（6 / 10）

（1） 本時の目標

- ありが種を運ぶ様子を事柄の順序に気をつけて説明することができる。（読むこと）
- 文の中の主語と述語の関係に注意して読み、ありの行動やすみれの変化を読み取る。（読むこと）

（2） 本時の展開

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれの種ができる順序を振り返る。 ・すみれは、近くの地面にたねを落とすことを振り返る。 ・ありが種を運ぶ様子について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大本文で着目した箇所をみながら、すみれの種の変化を確認する。
<p>2 学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ありがたねをはこぶようすをじゅんじょよくせつめいしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ひみつフラッグを使って、ありがたねを運ぶ様子について順序に気をつけて説明することを伝える。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を示し、本時のめあてを意識できるようにする。 ・教科書の本文を読み、振り返りながら考えるように促す。

<p>3 ありが種を見つけてから捨てるまでの行動を、ひみつフラッグボードの上で操作しながら説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ (まず) みは、三つにさけてひらきます。 ○ (つぎに) たねがいきおいよくとび出します。 ○ (そのあと) たねは、つぎつぎとちかくの地面に落ちます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ ありが、すみれのたねを見つけました。 ○ ありが、たねをすの中へはこんでいきます。 ○ ありが、はこんだたねをすの外にすてています。</p> </div> <p>4 ありが種を運ぶ様子を、ひみつフラッグを使い、順序に気をつけて全体の場で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひみつフラッグを使い、全体の場で発表させる。 <p>5 「しばらくすると」からたねのすてるまでの間で、種の変化を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白いかたまりがなくなっている。 ・たねを運んでいるうちにおとした。 ・巣の中にえさを集めておく。 <p>6 本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で作成したひみつフラッグを使い、ありの行動について確認するよう促す。 ・行動を書いたフラッグを並び替えることで、順序を確認する。 ・順序に気をつけながら、説明の仕方が思いつかない児童には、ありが種を見つけましたのでところだけでも良いことを伝える。 ・「しばらくすると」から時間の経過に気づかせる。 <p>◇ ありが種を運ぶ様子を事柄の順序に気をつけて読むことができる。 (ひみつフラッグ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラッグボードを使い、全体の場で発表させる。 ・発表後に、たねを運ぶ前と運んだあとでどう変化したかについて問う。 ・教科書の本文にかえり、ありにとって、大切なのはたねではなく白いかたまりだということに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でなにが分かったを振り返り、ノートに書くよう促す。
---	--

8 板書計画

ありがたねをはこぶようすをじゅんじょよく
せつめいしよう。

気をつけること

- ・じゅんじょをあらわすことばをつかう
- ・「まず」
- ・「つぎに」
- ・「そのあとで」
- ・フラッグを立てる場しよ

フラッグボードの絵
すみれの種の様子

フラッグボードの絵
ありの巣